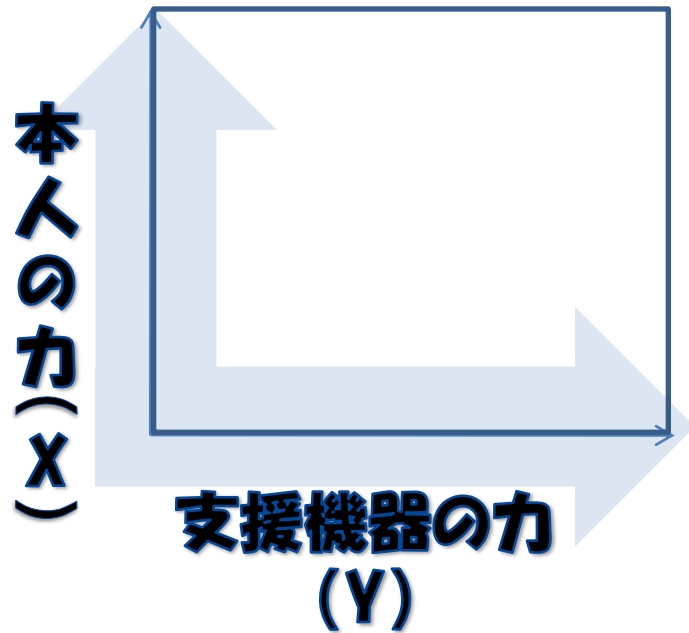


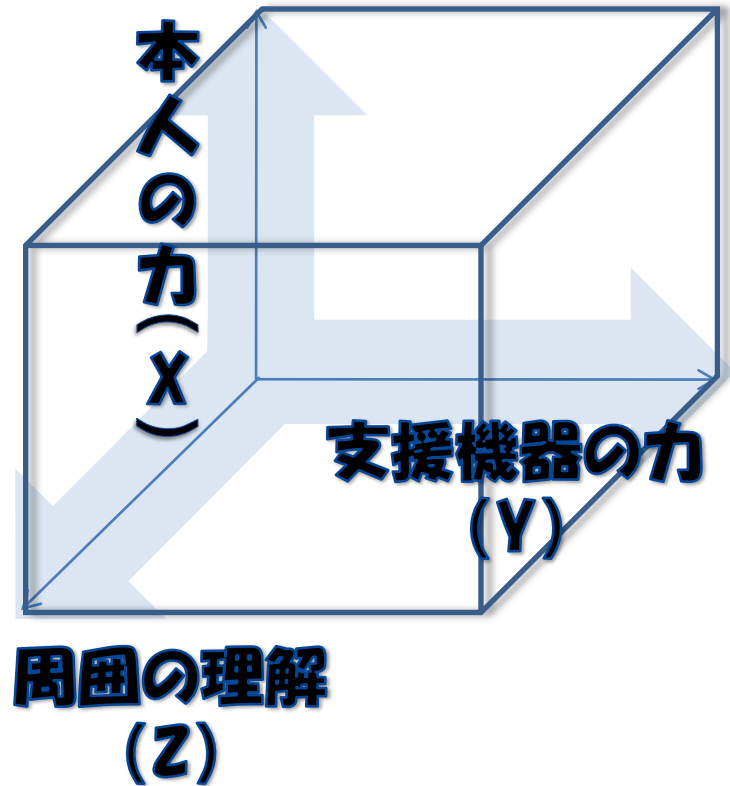
あきちゃんの 魔法のふでばこPJ 成果報告

報告者 大分県立竹田支援学校 藤井 契

社会参加に必要な能力(K)とするなら



$$X \times Y \geq Km^2$$



$$X \times Y \times Z \geq Km^3$$

支援機器の力(Y)と周囲の理解(Z)を同時に伸ばしたい！

周囲の理解も含めた目標設定

対象	目標	進捗状況
校内 (教員)	○iPadが授業や行事での教材教具や支援機器として、当たり前に使われるようになること。 ○学習アプリの開拓(情報収集や実際に使ってみる)	・昨年iPodを利用していた時に比べると、とても認知されるようになった。 ・アプリの相談などをして頂けるようになった。 ・iPadのアプリ活用などの宣伝が不十分、教員に触ってもらう時間を作っていないことが原因。
児童生徒	○遊びや学習でiPadに触れて使い方を知る。 ○アプリで楽しく効果的に学習を行う。	小学部(7名)、中学部(7名)は少人数のため、みんな触れる環境ができた。 ・iPadで学習したい! 遊びたい! と伝えてくれることが増えた。
地域	○iPadの取り組みを通して、特別支援教育について興味を持ってもらう。	・研修などで紹介させてもらうことができた。新聞での取材も受けることが決まった。

竹田支援学校では、以上のような、目標をもって取り組みました。事例や実践をまとめているのでご覧ください。(中間報告より)

Y君の事例①(ビデオ)



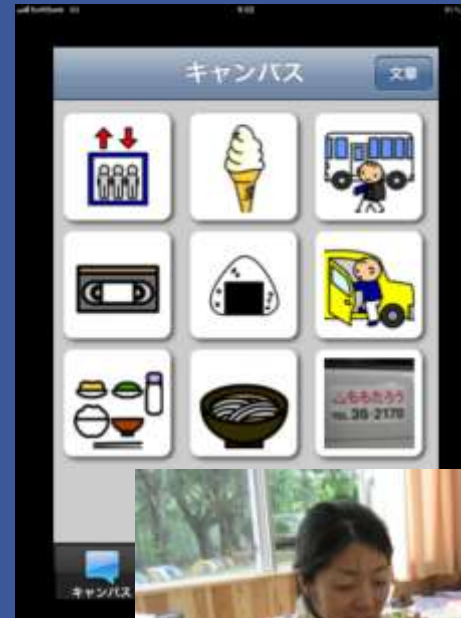
ビデオが好きで、固定されたテレビの前から一步も動かなかったY君。一人で過ごす時間の方が多く、活動に参加することが難しい一面も。

iPadに動画を取り込むことで、場所を選ぶことなく、移動の際も持ち運ぶことが可能。同時に人との関わりも多く見られるようになりました。

Y君の事例②

<昨年までのサイン>	
サイン	言葉
両手でガッツポーズ	します。イニス
手を振る	しない。ノー
足を踏む	歩く
目を指さす	見る
人差し指を立てる	もう一回
胸の指で両手を組む	お願い
胸を指さす	自分もしたい
舌を長く真似	歯磨き
顔をこする真似	顔を洗う
舌を出して振る	アイス

人差し指を口から鼻へ	
両腕を手のひらで押さえる	
鼻をつまむ	
鼻を指さす	
右手を口にもっていきかむ真似	
右手の手のひらを顔につける	
右手を口につける	
左手の上を右手で包丁を切る真似	
左手の上を右手で書く真似	
左手の手の指先でひねる	
両手で口にぎりぎりをぎる真似	
上唇の唇の指を振る	
グーの手をして顔につける	
手を洗う真似	
両手を上に上げる	
右手の二本の指を口につけ、次々真似	
<今年度から出るようになったサイン>	
サイン	
両手を握り、合図をいままま出す	
両手の人差し指を前に出す	



本人独自のサインで、家族や担任にしか伝わらないものも多く、引き継ぎ資料は大量のサインと写真でいっぱいでした。

VOCAアプリ(DropTalk)を使うことで、独自のサインを知らない担任以外の先生にも自分の要求を伝えることができるようになりました。

小学部の事例



これまでは、文字カードでのやり取りでした。たくさんのカードを常に持ち歩くことも大変です。発語のない子どもの代わりに、教員が話すこともありました。



iPadを使うことで、子どもたちが主体的に朝の会を行う姿がみられるようになりました。今年度の学部研修でも、iPadを活用した授業実践や研究発表も行われました。

その他の事例(写真、ビデオ)



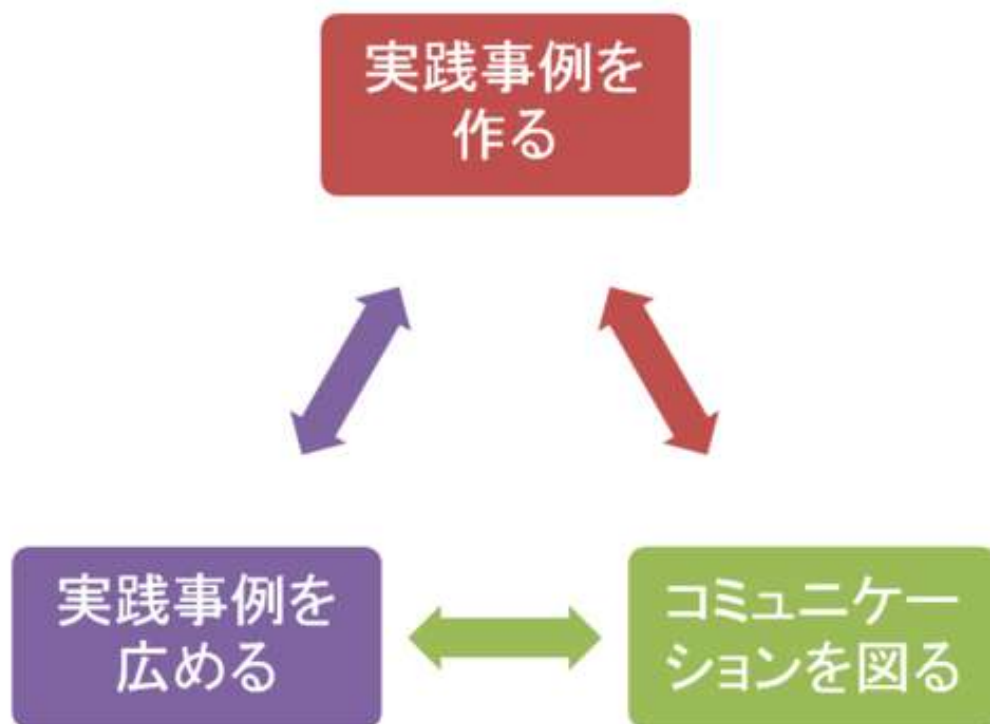
1学期、iPadを活用した学習を行っていたK君。2学期より長期入院となり、学校に来ることが出来ませんが、行事や学校での様子をビデオや写真を見ながら、楽しむ姿がみられています。



運動後のカードと引き換えにサッカー動画を見る約束をしています。動画を楽しみに活動が増えることが多くありました。動画だけでなく、自らサッカーをする姿もしばしばみられます。

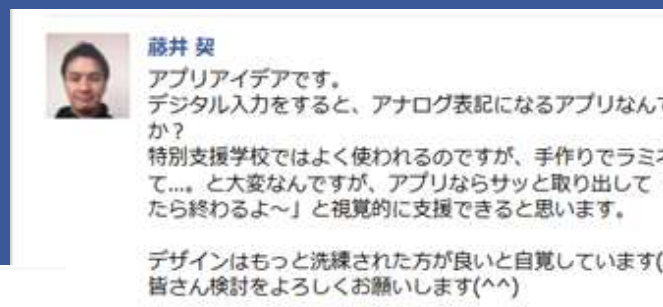
自分の実践を自分だけの財産にしない

普及を図るためには



支援機器の普及を図るため、また、支援学校での活動を広く伝えるために、Facebookを活用し、実践事例を投稿するなどして、たくさんの人とコミュニケーションをはかりました。

Facebookの活用



大分県の取り組みで、面白いのが
Facebookでの実践報告や情報交換、
教職員のみではなく、異業種の方とも
つながることができ、想いが形になる
ことも。

こんなアプリが欲しい！との投稿に
すぐに取り組んでいただけることも
ありました。これからもつながりを
大切に大分を盛り上げていきたいと
思います。

周囲への理解を広めるために



iPadを活用した取り組みが注目されることで、特別支援教育の現状を伝えることができると考え、情報発信のチャンスと考えました。

新聞やカンファレンスを通して、支援機器の可能性や周囲の理解を深めることができました。これからも、情報発信に取り組みます！

魔法のふでばこ(おまけ)



たった1台からスタートした「多機能端末普及委員会(仮)」目立つようにと、蛍光グリーンで興味を引くことからのスタートでした。



あれから1年半。。。魔法のふでばこPJのおかげで、今では、多くの先生方にiPad,iPod,iPhoneを活用した実践に取り組んでいただいています。